

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2018.4 April vol.43

2月議会質問

2月19日から3月15日まで定例議会が開かれ、知事提案の平成30年度一般会計予算など予算案39件、法律改正に伴う手数料改定など条例案27件、包括外部監査契約の締結について等一般事件案6件、県立大学出雲キャンパス新棟整備工事など報告4件、そして議員提出「2025年国際博覧会の誘致に関する決議」は、すべて可決し終了しました。私の一般質問概要を報告します。

乳幼児の育ちを支える

幼児教育センター

幼児教育センターはどのようなもので、どのような取り組みをされるのか。

教育長 平成30年度から、就学前教育に関する支援体制の整備のため、健康福祉部と共管の幼児教育センターを開設。センターには、教育指導課に2名の指導主事、松江、浜田の2つの教育事務所1名ずつの指導主事と幼児教育アドバイザーを配置して、その総体を幼児教育センターと呼ぶ。

幼児教育センターは、保育者の力量や園所の教育力の向上を図り、島根の幼児教育の質の向上を目指す。幼児教育施設の実情やニーズに合わせて、園所を訪問しての研修の支援を中心とした取り組みを行う。県内の幼児教育に関する知見を集約し、全ての幼児教育関係者のよりどころとなるプログラムの作成などにも取り組む。

幼児教育の充実、振興を通して、島根が目指す、主体的に課題を見つつけ、様々な他者と協働しながら、定まった答えのない課題にも粘り強く向かっていく子どもの力を育成するための端緒としたい。

子育て世代包括支援センター

先進自治体の取り組みの情報を収集し、各市町村に提供し、設置を支援していく考え

しまね田舎ツーリズムの登録件数・登録者の活動状況は。

地域振興部長 平成30年2月の時点で、協議会には180の個人、団体が登録。

奥出雲町では、有機栽培の綿摘み、エゴマの採取等、古民家での田舎暮らしの体験を提供、益田市では、欧州の人を受け入れ、浴衣の着つけ、ワサビの収穫など、日本の文化に触れ合う体験を提供、隠岐の島町では、海辺の洞窟を回るシーカヤックや民謡の体験を提供するなど、地域の資源を活用した多種多様な体験を提供している。

訪日外国人の誘客を推進していく山陰インバウンド機構では、しまね田舎ツーリズムも視野に入れられているのか。

商工労働部長 山陰インバウンド機構としても、外国人旅行者の誘致に生かせることから、今後、しまね田舎ツーリズムと連携していく。

具体的には、田舎ツーリズムの支援を行うふるさと島根定住財団と連携して、田舎体験の提供者が、次のステップとして外国人の受け入れにもチャレンジできるように、研修会の開催などを行う。さらに、現場で外国人をスムーズに受け入れられるよう、観光協会等と連携して、外国人対応窓口の設置を検討している。

しまねコトアカデミーの事業目的と事業内容を聞く。

地域振興部長 しまねコトアカデミーは、東京や大阪など大都市圏に在住し、島根の地域づくりなどに関心を持つ人を対象に、4回から6回の座



根に来ていただき、地域で活動する人や住民の皆さんの話を伺い、また農業やさまざまな地域活動を体験した上で、講座の最終回には全員が自らの気づきや島根へのかわり方を発表し、振り返りを行うといった流れで進んでいくもの。この講座全体を通して、島根で活躍する若者や移住経験者が助言者となり、SNSなどを利用して随時受講者の相談にも応じており、中途で受講を断念する人はほぼいない。

事業開始から6年となる事業の成果と評価はどうか。
地域振興部長 しまねコトアカデミーは、東京では平成24年度から、大阪では平成27年度からそれぞれ実施し、この6年間で計109人が受講、そのうち島根に移住した人が19人で、島根への移住を検討中の人が16人。また、移住には至らないまでも、20人以上の人が、島根の食を紹介するイベ

会派研修会
社員の働きがいをつくる
3月14日、民主市民クラブの研修会として、「不思議な会社」に不思議なんてないの著者、島根電工（株）社長荒木恭司さんの話を伺いに、会社を訪ねました。

島根電工は、公共事業受注主体から「おたすけ隊」による小口工事の受注拡大に成功。右肩上がりに成長を続け、バブル期よりも売上、利益を約2倍に伸ばしています。また、業界活性化を目的として、全国フランチャイズ展開をし、同業者35社以上の経営支援を行っています。

会社は人の幸せのためにあるとして、福利厚生、労働時間短縮にも力をいれ、週3回のノー

根に来ていただき、地域で活動する人や住民の皆さんの話を伺い、また農業やさまざまな地域活動を体験した上で、講座の最終回には全員が自らの気づきや島根へのかわり方を発表し、振り返りを行うといった流れで進んでいくもの。この講座全体を通して、島根で活躍する若者や移住経験者が助言者となり、SNSなどを利用して随時受講者の相談にも応じており、中途で受講を断念する人はほぼいない。

事業開始から6年となる事業の成果と評価はどうか。
地域振興部長 しまねコトアカデミーは、東京では平成24年度から、大阪では平成27年度からそれぞれ実施し、この6年間で計109人が受講、そのうち島根に移住した人が19人で、島根への移住を検討中の人が16人。また、移住には至らないまでも、20人以上の人が、島根の食を紹介するイベ

会派研修会
社員の働きがいをつくる
3月14日、民主市民クラブの研修会として、「不思議な会社」に不思議なんてないの著者、島根電工（株）社長荒木恭司さんの話を伺いに、会社を訪ねました。

島根電工は、公共事業受注主体から「おたすけ隊」による小口工事の受注拡大に成功。右肩上がりに成長を続け、バブル期よりも売上、利益を約2倍に伸ばしています。また、業界活性化を目的として、全国フランチャイズ展開をし、同業者35社以上の経営支援を行っています。

会社は人の幸せのためにあるとして、福利厚生、労働時間短縮にも力をいれ、週3回のノー

ントを企画開催するなど様々な取り組みを自主的にやっている。中には、しまねコトアカデミーの運営に協力される人もあり、それぞれが住んでいる地域で引き続き島根を応援してくれている。

最近、働き方を見直す動きが広がる中で、本業を持ちつつ第二のキャリア（パラレルキャリア）形成を支援する企業も増えている。しまねコトアカデミーへの参加を希望する人は引き続き増えるものと予想する。

しまねコトアカデミーの今後の取り組みと展望はどうか。
知事職務代理者 この関係人口の拡大を通じて、将来の移住人口の獲得や、島根を応援してくれる層を増やし、地域の活力の増進へとつなげることが大切。来年度、新たに首都圏の企業や大学と連携するなど、さらに関係人口の拡大を図るよう取り組みを強化していく。

もすでに手狭となり、増築を計画されていて、経営拡大の勢いを感じました。地方の会社でも社員を一番に大事にする会社は、景気が悪くても伸びていくということを示しています。



荒木社長と懇談

とまちゃん通信

発行者 角 智子 〒690-0063島根県松江市寺町67-23
TEL.(0852)28-8880 FAX.(0852)28-8881
E-mail sumi@tomachan.net
U R L http://www.tomachan.net/

会派県外(関東地方)調査

県外先進地の取り組みを学ぶ

1月30日～2月1日、民主
県民クラブでは県外調査を関
東地方で行いました。

世界遺産を地域活性化に

世界遺産の富岡製糸工場の
活用施策について、高岡市役所
と現場で調査しました。

富岡製糸工場は2014年
にユネスコ世界遺産に登録さ
れ、それとともに観光客も百万
人を突破しましたが、その後は
徐々に減少、昨年は80万人でし
た。島根にも世界遺産の石見銀
山がありますが、世界遺産登録
により知名度アップにはなっ
ていますが、それを持続可能な
地域の活性化につなげるかは
難しい問題です。

富岡市役所観光おもてなし
課の説明によると、町の玄関に
当たる上州富岡駅から富岡製
糸工場までの動線及び周辺の
整備、市営駐車場の整備・活用
景観助成金による整備、そして
魅力発信強化や旅行エージェ
ントへの働きかけ、インバウン
ド対策など、入り込み客増加に
努めています。首都圏からの日
帰り客の他に、周辺の温泉地の
客を誘導するなど、世界遺産を
観光につなげる持続可能な取



スマートグラスを使って解説ツアーに参加

女性だけで農産物加工

前橋市富士見地区の農家の
女性たちが、地元産物の農産物の加
工や直販に取り組み富士見農
産物加工組合に伺いました。

女性の力で農産物加工

この後、製糸工場に行き、明
治期の工場をCGで見られる
スマートグラスによる解説ツ
アーで見学しました。



富士見農産加工組合で説明を受ける

農家で市場に出荷するほど
の量はないが、自家消費する
以上に出来たものを活用した
いと、前橋市に合併される前の
富士見村から借り受けた元保
育園を拠点にして、農産物の
他、味噌やこんにゃく、パン、ま
んじゅうなどに加工して販売
を始めました。

91年8月に加工組合を設立
当初は33名の組合員でしたが、
現在は10名ほどで活動してい
ます。課題は担い手の確保、若
い人たちは平日、仕事に出てお
り、土日開店の直販、加工所での
活動では自分の時間が持て
ないと、敬遠されることが多
く、そんな中にもあっても、加工
品の学校給食への利用や体験
学習、買い物弱者への移動販売
など事業の多様化にも挑戦し
ています。

図書館でビジネス支援

埼玉県熊谷市にある県立図
書館では、ビジネス支援に取り
組んでいます。

起業や新たな分野開拓に向
けて、企業が情報を収集できる
環境づくりを県立図書館が支
援しています。市場に関わる
データを集積したソフトを導
入し、商工会議所などと連携し
て企業や起業を考える人々に
情報提供しています。

市場情報評価ナビMinea
女性だけで運営する加工組
合として、今後も高齢者への訪
問販売や福祉施設との連携、マ
ルシェでの販売など、存続をか
けて活動を続けています。



ビジネス支援室で市場評価ナビの説明をきく



富士見農産物加工所の皆さんと

(ミーナ)を見ながら説
明を受けましたが、地
域を限定して、そこに
若い世代が何人くら
い、一定程度の所得が
ある人が何人くらい、
指定した人口層が地
図上でどう分布して
いるかなど、様々な設
定で市場ニーズを把
握することができま
す。そうした情報を仕
事に役立ててもらっ
るのがビジネス支援室
の役割です。

ビジネス支援を始めている
島根県立図書館でも、こうし
た取り組みを参考に、デー
ベースが県民の皆さんに有効
に活用できるように、さらなる
取り組みが必要です。

平和外交で解決を

2月22日は、島根県議会で
条例制定した、竹島の日です。
昭和27年1月18日に韓国の
李承晩大統領が公海上に一方
的に線(いわゆるリショウバ
ンライン)を引き、竹島を取
り込んだことにより、それ
まで漁場として漁を行って
いた隠岐島民は追い出されて
まいりました。この韓国の国際
法上違法な占拠による問題を
解決し、韓国、日本の双方の漁
民がともに漁ができるよう
にしてほしいという隠岐島民の
願いに、何ら国が動かないこ
とに対して、この問題の喚起
を願って制定されたのが「竹
島の日条例」です。

ただ、この条例制定によっ
て領土権争いの色彩が濃く
なると、韓国との関係がぎく
しゃくしていることは残念で
す。隠岐島民は、互いに仲良く

点から面の支援に



おもり語らいの駅で澤登センター長から話を聞く

日本版ネウボラと言われる
子育て世代包括支援センター
の先進的な取り組みをしてい
る「こっぽんネウボラネット
ワーク」代表の榊原久子さん
と、センターの窓口として活用
されている「おもり語らいの
駅」で活動する牧田総合病院地
域支え合いセンターの澤登久

漁ができることを願っていま
すし、また日本海の資源保護
に両国が力を合わせて取り組
まなければならない時にも来
ています。

島根県では、竹島の日の2
月22日に記念式典を毎年開催
しています。式典を前に、三
年前から「竹島問題を語る国
民交流会」が開かれ、国会議
員、地方議員はじめ、県内外
の竹島問題に関心のある人
たちが参加して、車座での意
見交換を行っています。今
回、私は初めてこの会に参加
しました。

「竹島周辺を漁場とする島
取県と一緒に漁業権の
解決が必要」「県外の人、女性
にもわかりやすい竹島問題の
周知を」などの意見が出され
ました。私も「竹島に関する事
実を明らかにし、両国の共通
認識に立った取り組みが必



車座で参加者と意見交換

雄センター長から、取り組みに
ついて伺いました。
語らいの駅は、地域の支え合
いに住民や商店街、事業所にも
関わってもらい、高齢者や子育
て中の人たちの支援の窓口的
な役割を担っています。点の支
援を面の支援にする、気づきの
ネットワークと対応のネット
ワークが一緒になって支援の
力が発揮できる仕組みを作っ
ています。